

第23回 歴史&ハイキング愛好会例会 実施報告書

～ 伝統芸能「新春 能狂言」鑑賞 と 新年参拝並びに新年会 ～

当番世話人 牧田 賢二

時節柄、インドア型を前提として「新春能狂言」鑑賞と、新年の行事をメインに計画・実施しました。

1月28日（日）JR中野駅に10:30AM 集合。大寒波襲来での寒さが気になりましたが1桁台の低温ながら幸い風もなく先ず先ず、予定通りまずはご当地で有名な新井薬師（梅照院：目の薬師・子育ての薬師）～新井天神（北野神社：菅原道真公・保食神の2柱をお祀り）にて新年の参拝、続いてサブカルの聖地・オタク族に人気抜群の中野ブロードウェイ内（3F～1F）を見学し、11:30AMに新年（昼食）会会場に到着。

会では、本番の能狂言鑑賞時に眠気で支障を来さないよう助言がありながらも、結構な量の酒類と共に気心の通う仲間同士の新年の歓談で大盛会となりました。

1:35PM 中野駅南口徒歩8分の上演会場「なかのZERO 大ホール」に到着し、記念の集合写真をカメラに納め入場、2:00PM 待望の開演。

素謡「神歌」（観世喜正）に続き、わかり易い解説（小島英明）があり、狂言「樋の酒」（野村萬斎ほか）、能「高砂」（小島英明ほか）と続き、4:45PM 終演とともに自由解散しました。

若い頃や現役時代には伝統芸能等には見向きもしなかった方も多いと思われませんが、余裕ある熟年としての今、一度は体験してみるのも良いのではとの企画でしたが、さすが「生の迫力」（所作・音響など）にはあらためて感動されたメンバーも多かったようでした。

☆ 牧田世話人JR中野駅前で“寒中での歩行注意”と行程案内



☆ 中野ブロードウェイを通り抜け新井薬師寺へ向かう



☆ 新井天神へ



* なかのZERO大ホール前で 参加者（敬称略）20名

- ・前列左から・宇田川修侅・櫻井 實・木頃勝紀・西長義方・平木行雄・牧田賢二・田代 周
- ・後列左から・六角 学・中島公一・青木直典・小澤敏宜・住田勝治・川股賢三・坂本昇三
- ・浦上宣明・湯浅尋夫・山田昌之・日野峯治



高砂

【たかさご】

なかのZERO
SHENYU
NOH

あらすじ

能『高砂』たかさご

醍醐天皇の御世のこと、肥後国(熊本県)阿蘇神社の神主友成(フキ)は、都見物の旅の途中、播磨国(兵庫県)の名所、高砂の浦に立ち寄る。そこ、清らかな佇まいをした老翁(前シテ)と姥(ツレ)の老夫婦が現れ、松の木陰を掃き清めるので、友成は、かの有名な「高砂の松」はどの木かと尋ね、また「高砂の松」と「住吉の江(天草市住吉区)の松」は離れた所にあるのに、なぜ「相生の松」と呼ばれているのかと問うる。すると老翁は、この松こそ「高砂の松」であり、自分は住吉の者で、この地は当所高砂の者である事を例に引き、山川万里を隔ていても夫婦は通い合うものだと言ひ、樹齢千年を待つ常緑の松は特にめでたいものだと言ひ、樹齢千年を待つ常緑の松は約して、夕波に寄せる岸辺で小船に乗ると、追風にまかせて沖の方へと姿を消す。(中入)

残された友成一行も月の出とともに高砂の浦に帆を上げて船に乗り、夫婦の後を追って住吉へ向かう。岸に着くと、清々しい春景色の中、住吉明神(後シテ)が颯爽と姿を現し、千枚万歳を祝って舞を舞う。

狂言『榎の酒』ひのさけ

主人(アト)が太郎冠者(シテ)に米蔵、次郎冠者(小アド)に酒蔵の番をするよう言いつけて出かける。次郎冠者が早速酒蔵の酒を飲み始めるので、酒好きの太郎冠者はうらやましく仕方がない。そこで次郎冠者は、酒蔵から米蔵へ榎を渡して酒を流し、太郎冠者にも飲ませることに成功する。すうかり漕子に乗った二人は、

- | | | |
|---|---|--|
|  <p>観世喜正
YOSHIMASA KANZE</p> <p>観世流シテ方。1970年生。観世喜之の長男。父に師事。父とともに矢来能楽堂を中心に活動。国内や海外での演能にも多く携わる。能楽協会の教育特別委員として能楽体験学習など、若い世代への能の普及を積極的に行進。著書「演目別に見る能楽家1・2」。慶応大学法学部卒業。重要無形文化財総合指定保持者(日本能楽会会員)。(公社)観世九草会理事。(公社)能楽協会理事。</p> |  <p>小島英明
HIDEAKI KOJIMA</p> <p>観世流シテ方。1970年生。観世喜之に師事。祖父は先々代喜之。伯父は先代喜之に師事した能楽師で、幼少より能に親しむ。中野ZEROでの公演は本年度で13回目。国内外の公演以外にも能楽普及のための講座を自ら多数企画。実地。著書に「定する能楽」。学習院大学法学部卒業。草風会主宰。重要無形文化財総合指定保持者(日本能楽会会員)。(公社)観世九草会所属。(公社)能楽協会会員。</p> |  <p>野村萬斎
MANSAI NOMURA</p> <p>和泉流狂言方。1966年生。野村万作(人間国宝)の長男。故六世野村万蔵及び父に師事。3歳で初舞台。国内外で狂言の普及を目指す一方、映画、舞台、TV等幅広いメディアで活躍。古典の技法を駆使した演出等、新しい演劇活動にも積極的に取り組む。東京藝術大学音楽学部卒業。世田谷パブリックシアター芸術監督。こさる乃屋主宰。重要無形文化財総合指定保持者(日本能楽会会員)。(公社)能楽協会会員。</p> |
|---|---|--|



□ 2018年1月28日(日) 14:00開演(13:30開場)

□ なかのZERO大ホール

※東京中野区中野2-9-7 ※JR・東京メトロ東西線 中野駅南口より徒歩8分
※駐車場はございませんので、公共の交通機関をご利用ください。